



# 魅力ある 風景を 未来へ

文化的景観の保護制度



## 文化的 景観とは…

地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地で我が国民の生活又は生業の理解のため欠くことのできないもの（文化財保護法第二条第1項第五号より）

文化的景観は、日々の生活に根ざした身近な景観であるため、日頃その価値にはなかなか気付きにくいものです。文化的景観を保護する制度を活用することによって、その文化的な価値を正しく評価し、地域で護り、次世代へと継承していくことができるのです。

文化的景観の中で、特に重要なもので保護の措置が講じられているものについては、都道府県又は市町村の申出に基づき、重要文化的景観に選定されます。

重要文化的景観に選定されたものについては、現状を変更し、又はその保存に影響を及ぼす行為をしようとする場合等、文化財保護法により、文化庁長官に届け出ることとされています。ただし、通常の生産活動に係る行為や非常災害に係る応急措置等においては、この限りではありません。

また、文化的景観の保存活用のために行われるさまざまな事業に対して、国からその経費の補助が行われるほか、重要な家屋について固定資産税が減額されるなど、優遇措置があります。

文化的景観の保護制度は、平成16年の文化財保護法の一部改正により始まった、新しい文化財保護の手法です。



蕨野の棚田(佐賀県唐津市)

### 農耕



遠野 荒川高原牧場(岩手県遠野市)

### 採草・放牧



アイヌの伝統と近代開拓による沙流川流域の文化的景観(北海道平取町)

### 森林の利用



四万十川流域の文化的景観  
下流域の生業と流通・往来  
(高知県四万十市)

### 漁ろう



通潤用水と白糸台地の棚田景観  
(熊本県山都町)

### 水の利用



平戸島の文化的景観  
(長崎県平戸市)

### 居住



高島市海津・西浜・知内の  
水辺景観(滋賀県高島市)

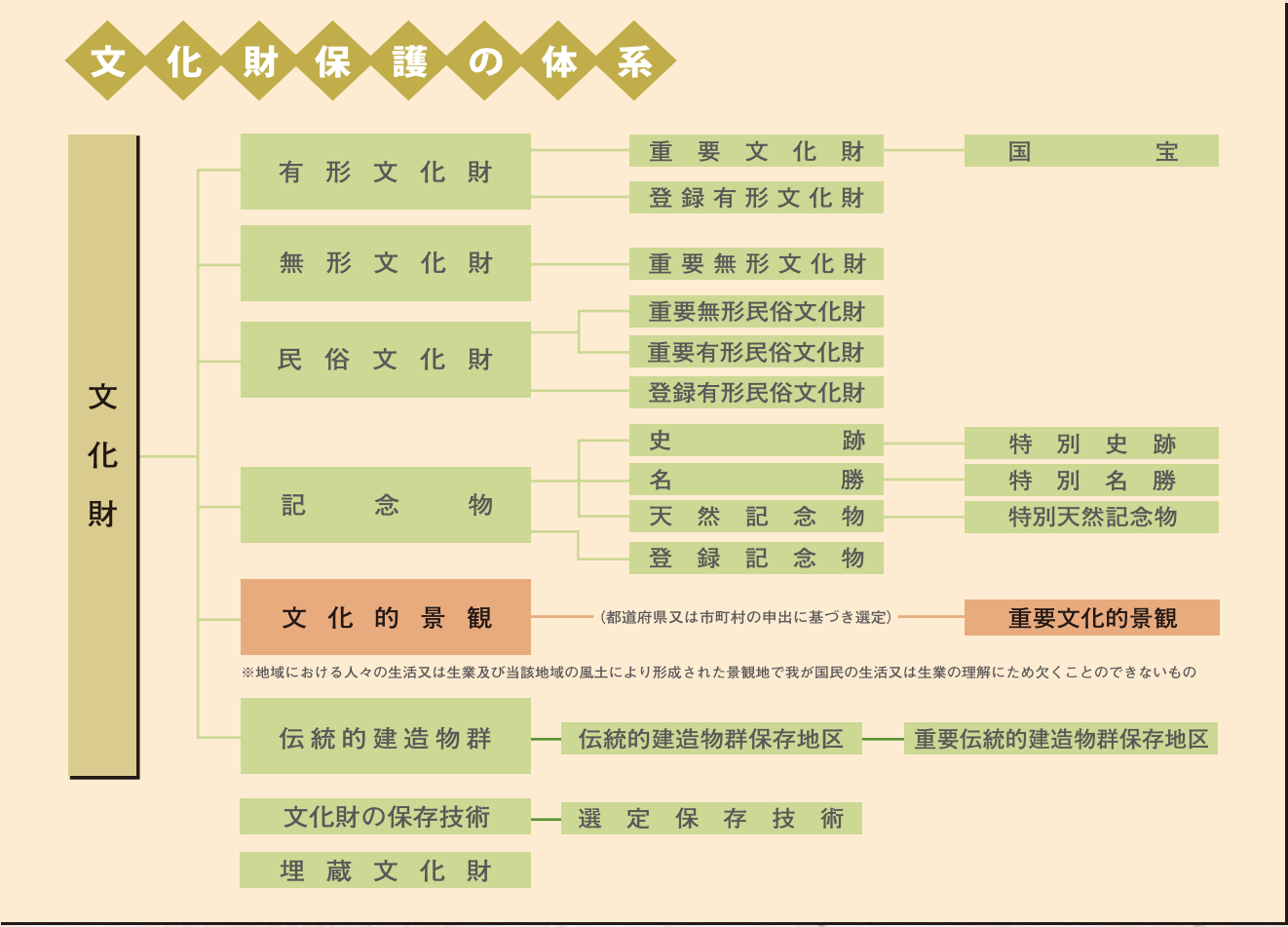
### 流通・往来



小鹿田焼の里(大分県日田市)

### 採掘・製造





宇治の文化的景観（京都府宇治市）



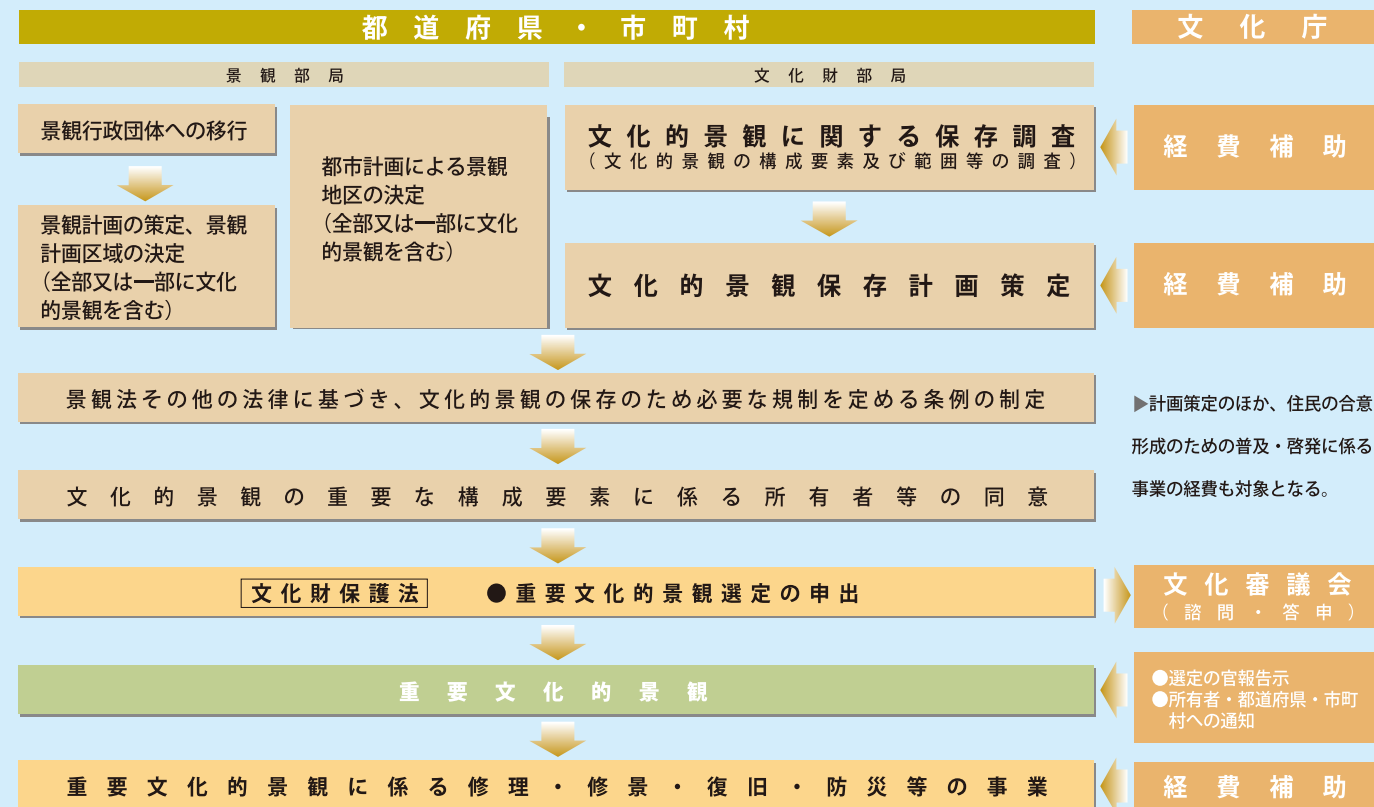
金沢の文化的景観 城下町の伝統と文化（石川県金沢市）

## 重要文化的景観選定基準

- 一 地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された次に掲げる景観地のうち我が国民の基盤的生活又は生業の特色を示すもので典型的なもの又は独特のもの
  - （一） 水田・畑地などの農耕に関する景観地
  - （二） 茅野・牧野などの採草・放牧に関する景観地
  - （三） 用材林・防災林などの森林の利用に関する景観地
  - （四） 養殖いかだ・海苔ひびなどの漁ろうに関する景観地
  - （五） ため池・水路・港などの水の利用に関する景観地
  - （六） 鉱山・採石場・工場群などの採掘・製造に関する景観地
  - （七） 道・広場などの流通・往来に関する景観地
  - （八） 垣根・屋敷林などの居住に関する景観地
- 二 前項各号に掲げるものが複合した景観地のうち我が国民の基盤的な生活又は生業の特色を示すもので典型的なもの又は独特なもの



## ◎ 文化的景観保護制度の流れ



### ◎ 税制優遇措置

●地方税／重要文化的景観の形成に重要な家屋として文部科学大臣が定める家屋（総務省令で定めるものを除く。）及び当該家屋の敷地の用に供される土地に対する固定資産税について、課税標準となるべき価格の二分の一の額とする。

## 文化的景観に配慮した整備の事例



〈施工前〉



〈施工後〉

### 素掘りの農業用水路整備（熊本県山都町）

- |                        |                                     |
|------------------------|-------------------------------------|
| ①水路路線の一部変更と幅員拡張        | ④土堤上に管理用道路を設置<br>(幅員約2.5m。路面は採石舗装。) |
| ②水路内における沈砂槽の設置         | ⑤公道からの取付道路の設置と舗装(車道部分のみ舗装)          |
| ③水路護岸における空石積み擁壁の採用(一部) | ⑥土堤部分の法留工(空石積み)                     |

## 国庫補助事業でできること

### 調査事業

自然的特性、歴史的特性、生活・生業上の特性などの観点から、文化的景観の価値を明らかにします。

### 保存計画策定事業

重要文化的景観選定申出に必要な文化的景観保存計画を策定し、保存の方針、運営体制、重要な構成要素等を定めます。

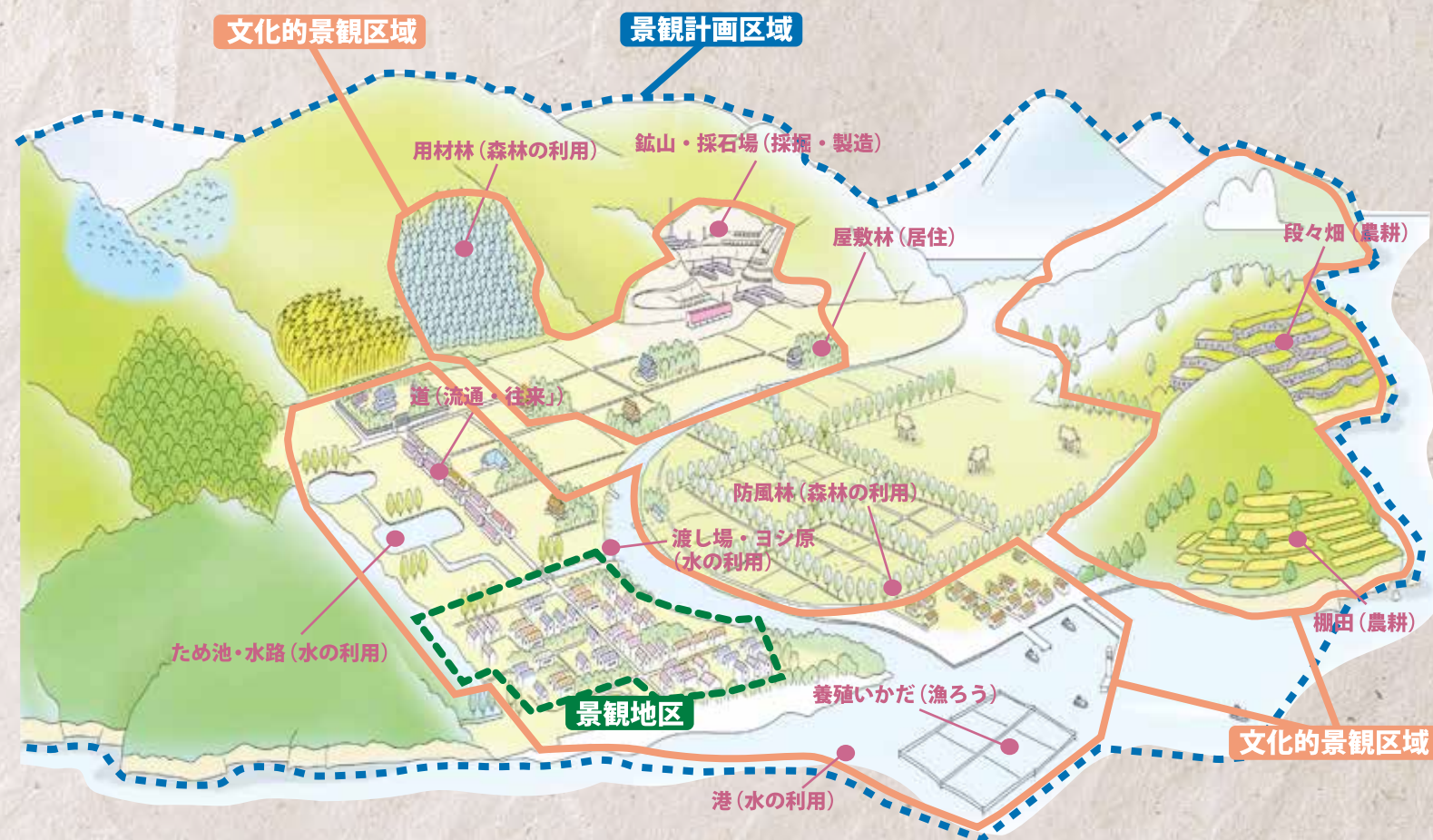
### 整備事業

重要文化的景観に選定されたものについて、整備計画の策定、案内板等の設置、重要な構成要素の修理・修景等を行います。

### 普及・啓発事業

文化的景観の価値を広く共有するため、パンフレット作成、地域住民が参加する勉強会・ワークショップ開催等を行います。

## 重要文化的景観の保護対象地域のイメージ





# 文化的景観保護制度の関係法令

## ○文化財保護法(抜粋)

### 第一章 総則

#### (一) 法律の目的

第一条 この法律は、文化財を保存し、且つ、その活用を図り、もつて国民の文化的向上に資するとともに、世界文化の進歩に貢献することを目的とする。

#### (二) 文化財の定義

第二条 この法律で「文化財」とは、次に掲げるものをいう。

一 建造物、絵画、彫刻、工芸品、書跡、典籍、古文書その他の有形の文化的所産で我が国に於て歴史上又は芸術上価値の高いもの(これらのものと一体をなしてその価値を形成している土地その他の物件を含む。)並びに考古資料及びその他の学術上価値の高い歴史資料(以下「有形文化財」という。)

二 演劇、音楽、工芸技術その他の無形の文化的所産で我が国に於て歴史上又は芸術上価値の高いもの(以下「無形文化財」という。)

三 衣食住、生業、信仰、年中行事等に関する風俗慣習、民俗芸能、民俗技術及びこれらに用いられる衣服、器具、家屋その他の物件で我が国民の生活の推移の理解のため欠くことのできないもの(以下「民俗文化財」という。)

四 遺跡、古墳、都城跡、城跡、旧宅その他の遺跡で我が国に於て歴史上又は学術上価値の高いもの、庭園、橋梁、峡谷、海浜、山岳その他の名勝地で我が国に於て芸術上又は観賞上価値の高いもの並びに動物(生息地、繁殖地及び渡来地を含む。)、植物(自生地を含む。)、及び地質鉱物(特異な自然の現象を生じている土地を含む。)で我が国に於て学術上価値の高いもの(以下「記念物」という。)

五 地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地で我が国民の生活又は生業の理解のため欠くことのできないもの(以下「文化的景観」という。)

六 周囲の環境と一体をなして歴史的風致を形成している伝統的な建造物群で価値の高いもの(以下「伝統的建造物群」という。)

### 第八章 重要文化的景観

#### (重要文化的景観の選定)

第三十四条 文部科学大臣は、都道府県又は市町村の申出に基づき、当該都道府県又は市町村が定める景観法(平成十六年六月十八日法律第百十号)第八条第二項第一号に規定する景観計画区域又は同法第六十一条第一項に規定する景観地区内にある文化的景観であつて、文部科学省令で定める基準に照らして当

該都道府県又は市町村がその保存のため必要な措置を講じているもののうち特に重要なものを重要文化的景観として選定することができる。

2 前項の規定による選定には、第百九条第三項から第五項までの規定を準用する。この場合において、同条第三項中「権原に基づく占有者」とあるのは、「権原に基づく占有者並びに第百三十四条第一項に規定する申出を行つた都道府県又は市町村」と読み替えるものとする。

#### (重要文化的景観の選定の解除)

第三十五条 重要文化的景観がその価値を失つた場合その他特殊の事由があるときは、文部科学大臣は、その選定を解除することができる。

2 前項の場合には、前条第二項の規定を準用する。

(減失又はき損)

第三十六条 重要文化的景観の全部又は一部が滅失し、又はき損したときは、所有者又は権原に基づく占有者(以下この章において「所有者等」という。)は、文部科学省令の定め

る事項を記載した書面をもつて、その事実を知つた日から十日以内に文化庁長官に届け出なければならぬ。ただし、重要文化的景観の保存に著しい支障を及ぼすおそれがない場合として文部科学省令で定める場合は、この限りでない。

(管理に関する勧告又は命令)

第三十七条 管理が適当でないため重要文化的景観が滅失し、又はき損するおそれがあるとき、文化庁長官は、所有者等に対し、管理方法の改善その他管理に関し必要な措置を勧告することができる。

2 文化庁長官は、前項に規定する勧告を受けた所有者等が、正当な理由がなくその勧告に係る措置を執らなかつた場合において、特に必要があると認めるときは、当該所有者等に対し、その勧告に係る措置を執るべきことを命ずることができる。

3 文化庁長官は、第一項の規定による勧告又は前項の規定による命令をしようとするときは、あらかじめ、当該重要文化的景観について第百三十四条第一項に規定する申出を行つた都道府県又は市町村の意見を聴くものとする。

4 第一項及び第二項の場合には、第三十六条第二項及び第三項の規定を準用する。

(費用負担に係る重要文化的景観譲渡の場合の納付金)

第三十八条 国が滅失又はき損の防止の措置につき前条第四項で準用する第三十六条第二

項の規定により費用を負担した重要文化的景観については、第四十二条の規定を準用する。(現状変更等の届出等)

第三十九条 重要文化的景観に関しその現状を変更し、又はその保存に影響を及ぼす行為をしようとする者は、現状を変更し、又は保存に影響を及ぼす行為をしようとする日の三十日前までに、文部科学省令で定めるところにより、文化庁長官にその旨を届け出なければならない。ただし、現状変更については維持の措置若しくは非常災害のために必要な応急措置又は他の法令の規定による現状の変更を内容とする命令に基づく措置を執る場合、保存に影響を及ぼす行為については影響の軽微である場合は、この限りでない。

2 前項ただし書に規定する維持の措置の範囲は、文部科学省令で定める。

3 重要文化的景観の保護上必要があると認めるときは、文化庁長官は、第一項の届出に係る重要文化的景観の現状の変更又は保存に影響を及ぼす行為に関し必要な指導、助言又は勧告をすることができる。

(現状等の報告)

第四十条 文化庁長官は、必要があると認めるときは、所有者等に対し、重要文化的景観の現状又は管理若しくは復旧の状況につき報告を求めることができる。

(他の公益との調整等)

第四十一条 文部科学大臣は、第百三十四条第一項の規定による選定を行うに当たつては、特に、関係者の所有権、鉱業権その他の財産権を尊重するとともに、国土の開発その他の公益との調整及び農林水産業その他の地域における産業との調和に留意しなければならない。

2 文化庁長官は、第百三十七条第一項の規定による勧告若しくは同条第二項の規定による命令又は第百三十九条第三項の規定による勧告をしようとするときは、重要文化的景観の特性にかんがみ、国土の開発その他の公益との調整及び農林水産業その他の地域の公益と産業との調和を図る観点から、政令で定めるところにより、あらかじめ、関係各省各庁の長と協議しなければならない。

3 国は、重要文化的景観の保存のため特に必要と認められる物件の管理、修理、修景又は復旧について都道府県又は市町村が行う措置について、その経費の一部を補助することができる。

第二百一条 次の各号のいずれかに該当する者は、30万円以下の過料に処する。

一 (一) (略)

三 正当な理由がなく、第百三十七条第二項の規定による重要文化的景観の管理に関する勧告に係る措置を執るべき旨の文化庁長官の命令に従わなかつた者

第二百二条 次の各号のいずれかに該当する者は、10万円以下の過料に処する。

一 (四) (略)

五 第百四十条の規定に違反して、報告をせず、若しくは虚偽の報告をし、又は当該公務員の立入調査若しくは調査のための必要な措置の施行を拒み、妨げ、若しくは忌避した者

第二百三条 次の各号のいずれかに該当する者は、5万円以下の過料に処する。

一 (略)

二 第百三十六条又は第百三十九条第一項の規定に違反して、届出をせず、又は虚偽の届出をした者

三 (略)

○重要文化的景観に係る選定及び届出等に関する規則(抜粋)

(法第百三十四条第一項の文部科学省令で定める基準)

第一条 文化財保護法(以下「法」という。)第百三十四条第一項の文部科学省令で定める基準は、次のとおりとする。

一 選定の申出に係る文化的景観(以下「文化的景観」という。)の保存に関する計画(以下「文化的景観保存計画」という。)を定めていること。

二 景観の保存のために必要な規制を定めていること。

三 文化的景観の所有者又は権原に基づく占有者(管理者がいる場合には、当該管理者を含む。以下「所有者等」という。)の氏名又は名称及び住所を把握していること。

2 文化的景観保存計画には、次に掲げる事項を記載するものとする。

一 文化的景観の位置及び範囲

二 文化的景観の保存に関する基本方針

三 文化的景観の保存に配慮した土地利用に関する事項

四 文化的景観の整備に関する事項

五 文化的景観を保存するために必要な体制に関する事項

六 文化的景観における重要な構成要素

七 前各号に掲げるもののほか、文化的景観の保存に関し特に必要と認められる事項